

\\ 入国・出国手順 //

入国

※医薬品持ち込みについて

[こちら](#)

- ・パスポート
- ・入国カード

※入国カードは機内で配られます。
到着前に記入しておきましょう

必要なもの



入国審査

パスポートと入国カードを提示して下さい
※スマートゲートは16歳未満の方はご利用いただけません

1

荷物受取

ターンテーブルより荷物を受け取ります

2

関税・検疫

申告の有無にかかわらず、税関・検疫へお進みください。
食肉・植物などの持ち込みには
ご注意ください。

【未申告の場合】
罰金の対象となる場合があります
詳細は[こちら](#)から

3

到着ロビー

オーストラリアでの旅をお楽しみください♪

5

出国

- ・パスポート
 - ・搭乗券
 - ・機内持ち込み手荷物・預け荷物
- 【ホテル出発前のチェックリスト】

[シドニー](#)

[メルボルン](#)

チェックイン

パスポートをチェックインカウンターへ
提示し、搭乗券をお受け取り下さい

出国審査

パスポート・搭乗券を提示してください
※スマートゲートは16歳未満の方はご利用いただけません

TRS（消費税払い戻し）

※預け荷物に入れる場合

TRS（消費税払い戻し）をご利用のお客様
詳細は[こちら](#)から

手荷物検査

機内持込手荷物の検査及びボディチェック

TRS（消費税払い戻し）

※機内持込できる商品の場合

払い戻し対象の商品をお持ちの方は、
TRS(Tourist Refund Scheme)ブースにて
手続きを行います

搭乗

搭乗案内後、指定の搭乗口より搭乗券を提示して機内へお進み下さい

6

\\ 入国・出国情報 //

入国の持ち込み物について

オーストラリア入国時には、免税範囲や持ち込み品に関するルールがあります。

18歳以上の免税範囲は、タバコ25本（または25g相当）、酒類2.25L、一般携帯品A\$900までです（18歳未満はA\$450まで）。

また、**A\$10,000以上**の現金または相当額を所持している場合は申告が必要です。

オーストラリアでは自然環境や農業を守るため、厳格な検疫（バイオセキュリティ）が実施されています。

食品や植物・動物由来製品など、**少しでも申告対象の可能性のあるものは申告**しましょう。

持ち込みが認められない品物は廃棄や没収の対象となる場合があります、**申告漏れや虚偽申告には罰則が科される**ことがあります。

迷ったら申告しておくのが安心です。

免税品を購入した場合

オーストラリア国内で購入した免税品は、販売方法によって取扱いが異なります。封印（シールドバッグ）された免税品については、販売店や航空会社の案内に従い、必要な場合は開封せずに持ち運びましょう。インボイス（税額票）は出国時の手続きに必要となるため、大切に保管してください。

また、TRS（旅行者払い戻し制度）を利用する場合は、出国時に商品と原本のインボイスを提示できるようにしておく必要があります。税関職員から求められた場合には、機内持込手荷物として提示できるよう準備しておきましょう。

TRSの申請要件を満たしていない場合は、GSTやWETの還付を受けられないことがあります。不明な点がある場合は販売店またはオーストラリア国境警備隊（ABF）に確認してください。

TRS（旅行者消費税等払い戻し制度） ※任意

オーストラリアでは、生鮮食品など一部の例外を除き、多くの商品やサービスに10%の消費税（GST）が課されています。海外からの旅行者は、オーストラリア国内で購入し、国外へ持ち出す対象商品について、**条件を満たせば出国時にGSTやWET（ワイン税）の払い戻しを受けられる**TRS（Tourist Refund Scheme）を利用できます。詳しくは [こちら](#)

TRSの手続きは、専用ウェブサイトやスマートフォンアプリを利用して事前入力することも可能です。

一方で、オーストラリア滞在中に**消費した商品、宿泊や飲食などのサービス、GSTが課されていない商品、ギフトカードやバウチャーなどは還付対象となりません。**

具体的な適用条件や手続き方法、各空港のTRS施設の場所については、事前にオーストラリア国境警備隊（ABF）や空港の [公式サイト](#) で確認しておくことをおすすめします。

飛行機のお預け入れ／機内持ち込み荷物について

荷物の制限は、航空会社や予約クラス（エコノミー、ビジネスなど）によって大きく異なります。

必ず事前にご利用の航空会社のルールをご確認ください

- 受託手荷物（預け入れ荷物）：許容量は航空会社や運賃タイプによって異なり、20kg～30kg程度の重量制や、23kgの手荷物を複数個預けられる個数制が採用されています。超過料金の計算方法も航空会社ごとに異なります。LCCはさらに条件が厳しい場合があります。
- 機内持ち込み手荷物：重さ（一般的に7kgまでなど）だけでなく、個数制限が設けられている場合もあります。
- 液体の持ち込み制限に注意：国際線では液体やパウダー類の機内持ち込みに制限があります。持ち込み制限品や危険物については、事前に航空会社の案内をご確認ください。

【旅行のワンポイントアドバイス】

乗り継ぎ（トランジット）がある場合：乗り継ぎ空港でも再度保安検査が行われる場合があり、同様の制限が適用されます。

紛失（ロストバゲージ）対策：預け入れ荷物には、万が一に備えてご自身のお名前と連絡先を記載した「ラゲッジタグ」をつけておくことをおすすめします。

【ご搭乗前のご注意】

- 液体物は100ml以下の容器に入れ、合計1L以下で機内持ち込みが可能です。
- モバイルバッテリーは機内持ち込みのみ可能です。
- 持ち込み制限品については、ご利用航空会社へご確認ください。